

ちょっと、本で見たんですが、（「堀江さん、時間が」と呼ぶ者あり）あ、済みません。終わりますけど、済みません。ちょっとこれだけは、ちょっと言わせてもらいますと、調査によりますと、5人に1人が対馬の市民の方々はあまり健康じゃない、健康じゃないと感じていらっしゃるそうなんです。5人に1人は、これはやっぱり大きな数字だと思いますが。もう一つは平均寿命、この平均寿命が国は男子で78.8歳、対馬市は76.8歳、女子では85.8歳が国で84.9が対馬市で、平均寿命も対馬市が県でも一番低いそうなんです。ですからこれを含めて、健康についてのさっき言いましたような、もっと自覚するような市民がですね、啓蒙をしていただけだと思います。

ちょっとオーバーしましたけど。これで質問を終わりたいと思います。

○議長（作元 義文君） 以上で10番、堀江政武君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩します。午後は1時から開始します。

午前11時53分休憩

午後0時59分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 改めまして、どなたもお疲れさまでございます。

私も、B-1グランプリですか、対馬とんちゃん部隊の準優勝に輝いたことに対し、心からお祝いを申し上げたいと思います。また、市長はじめ地元議会議員の同僚の皆さんも喜んでいただいていることに対し、心からこの場をかりてお礼を申し上げたいと思います。

実は、きのう御紹介がありました対馬ソムリエに就任いただきました世界の王さんの娘さん王理恵さんの御挨拶を受け、すばらしく意気込みを感じたものであります。2期目の財部市政の熱意のあらわれかとも思って高く評価するところであります。

王理恵さんが率直に言われましたように、インターネットですか、影響がすごく大きいと、こういう話がありましたが、次の段階である問題は、PRができて対馬に対する足の便です。これが私は非常に問題になろうと思っております。年の瀬を迎え、正月を家族で過ごしたくても、本土から子や孫が呼べない、そのような状況が現実かと思っております。

ところで、今は格安運賃の航空機とかそういう時代が来ておりますので、今回、改めて感じることは公共料金の格安の運動ですね、これからお願いをしておきたいと思っております。

それでは、通告に従いまして質問をしてみたいと思います。

私は天然記念物のヒトツバタゴ群生地の保護施策について再三にわたる対策をお願いしてきま

したが、どうなるのか。食害が著しく、枝だけでなく幹の樹皮を食い荒らして枯損木が目立っております。鰐浦地区の住民をはじめ多くの皆さんが心配をされてあります。この地区からも陳情が再三あっておると思っております。保護対策をしないと取り返しのつかないことになる一方、イノシシと鹿が歩き回ることにより、腐葉土、砂利等もなく、全く保水能力のない山肌で、早急な対策をとらないと、全てが枯損木となります。枯れてしまいます。教育委員会の職務とは誰も思っていないと思います。結局、市長が対応しないとしか市民は思わないんです。この際はつきりお願いをしたいと思いますが、教育委員会が予算要求をしたのか、市長側が予算をつけなかったのか、どうしてこんなに早急な対策ができなかったのか、教育委員会側が真剣にとらえてもらえなかったのかどうか、この際お尋ねしたいと思っております。教育長の答弁を求めたいと思っております。

2点目、主要地方道上対馬豊玉線の話、舟志琴間の道路の改良について、市長のほうから、私は非常に明るい知らせをこの前お聞きしておりますが、たびたび舟志琴間、これについてはお尋ねするところではありますが、今回この予算づけができたとのこと、まことに上対馬町民、市民、本当に喜びの限りであります。もし公表ができるようであれば、開始年度、それから予算規模、年数、市道なのか新規路線なのか、この際市民に報告をしていただければ大変うれしいと思っております。

そして、合併以前から上対馬豊玉線の改良につきましてはもう悲願でありましたけど、これは市長、私も去年、おとどしですか、知事陳情に同行しまして、よもやこう早くつくとは思ってもおりませんでした。やっと東沿岸の見通しがついたということであれば、めどがつけば我慢ができるんです。どうかこの際、旧町時代の諸先輩の努力もやっと実ったような状態ですので、詳しい御報告をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 糸瀬議員の御質問にお答えをいたします。

ヒトツバタゴは日本の財産であると思っております。昭和3年には鰐浦ヒトツバタゴ自生地として個人所有の土地150平方メートルが国の天然記念物に指定されております。その後、平成8年に、個人所有の土地4,150平方メートルが追加され、合計4,300平方メートルが指定されました。また、旧上対馬町が昭和51年に、土地ではなく鰐浦地区内の山林全域に自生しているヒトツバタゴについて、鰐浦ヒトツバタゴとして指定しております。

この貴重なヒトツバタゴについて、最近、議員御指摘のとおり対馬鹿による食害、剥皮被害が顕著に見られるようになりました。保護対策については、ことしの2月に鰐浦地区の役員の皆様と現地確認をし、その後、市役所内で対策について検討を行ってまいりました。その結果、ワイヤーメッシュとネットによる防護柵を設置する方法で進めることとしております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 糸瀬議員の質問に答えさせていただきます。

1点目のヒトツバタゴの保護対策の件でございますが、先ほど教育長のほうから話がありましたように、ワイヤーメッシュとネットによって防護柵を設置するというところでございます。手法についてはそうなんです、今年度といいますか山頂部分、鱈浦の海栗島側を左に見ての山手の部分になりますが、その山頂部分に500メートルワイヤーメッシュを設置をさせていただいております。それだけでは低うございますので、その上に今度は防鹿ネットをかける形で鹿対策をするというふうな予定をしております。

また25年度、あの近辺の観光地は、鱈浦だけではありませんけども、砲台跡も含めての観光地の計画がございますが、その中に観光資源としてのヒトツバタゴの位置づけをきちんとする中で、今度は山裾の部分について480メートルワイヤーメッシュを縦置きにしながら、2メートルの高さになろうかと思っておりますけども設置をしていきたいというふうに今組み立てをしてるところでございます。

次に、2点目の上対馬豊玉線の、特に琴舟志間の通称堂坂と言いますが、堂坂のこの問題についてのお話でございますが、先ほどの堀江議員のお話と重複する部分ございますけども、巖原南部のこの道路、そして糸瀬議員がおっしゃっております堂坂線、この2本というものを国のほうに持っていきました。

しかし持つていくに当たっては、県のほうの財政支援のスキームが一定のめどが立ったことを受けて国のほうに働きかけに行ったところであります。この2本について一定の理解をいただき、いいでしょうというお話がございました。そこで25年度から、正式な国のほうから認可が内定がおりますと25年度から組み立てていきたいというふうに考えております。

予算規模のお話がありました。これについては約45億から50億ぐらいを見込みを今しております。また、舟志五根緒間から琴のほうにトンネルという手法になろうかと思っております。約2.1キロ程度の路線になります。これを来年度から内定をもらいましたら進めていく予定で、今、内部事務を進めております。

しかし一つ問題がございます。これは、琴のほうの堂坂線に南部のほうから入りましたときに、琴の集落を抜けて堂坂線ともみじ街道のほうに分かれるところがございますが、あのもみじ街道に行くもっと上流側といいますか、に入ってから右側に入り込みたいというふうな思いを今路線的には描いておりますけども、この分かれ道から新たな道路の市道が県道にぶつかるころの県道間の整備の問題があると思っております。この整備、県道の整備ですね、ここについてはもみじ街道の、必ずしもモミジが自生しているところでもありませんので、県道拡幅をお願いしない

といけないという問題がそこは残っております。それらも県と十分に協議をしながら、でき上がった暁には、今言いました県道部分も完了してるというふうなことに事業としては持っていくというふうなことを、事務方のほうは動いておるところでございます。

ちなみに、この堂坂線につきましては、23年度の予算で概略設計の委託の予算を議会のほうに承認をしていただき、形をつくり出し、県のほうにもお話を持っていくというふうな運びになったところであります。そういう意味におきまして、今回の補正に上げております厳原南部の概略設計の部分につきましても、それを踏まえて全体の計画を積み上げていきたいと思っております。どうか堂坂並びに尾浦、浅藻あわせて、市民の皆様が長年にわたってずっと待ち望んであった、先ほど堀江議員のほうも半分以上諦めてたというふうな路線であります。そういう意味において、しっかりとそちらの最低の交通インフラというものをつくり上げて、そして市民の皆さんには新たな地域づくりというものに入っていただきたいというふうな思いを強く持っております。

冒頭、糸瀬議員がおっしゃられましたように、とんちゃん部隊のこのシルバークランプリというのは、対馬の皆さんに明るい話題を提供してくれましたし、市民に可能性も与えてもらったというふうに思っております。あの受賞を受けて1時間の間に、彼らが持つインターネットのホームページには7万件のアクセスがあったというふうに聞いております。7万件といたらもうとんでもない、1時間で7万件でありまして、その後は15万件ほどあつてるといふふうにも聞いております。それほどの反響のある活動結果でありましたし、これらを受けたときに、そういうふうな交通インフラの部分なんかもちんちんとやっていくというのが行政の仕事かなと思っております。今後も特別委員会の活動とあわせて、しっかりとこの基幹となるこの道路の部分をもっと取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、御理解をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 教育長、私も、教育長にしても市長にしても、数多くある質問の機会ではありませんので、非常に前向きな御答弁をいただきましてありがたいと思っております。教育長には特に、なられてから、改めては幼稚園とか保育園それから給食センターの問題、上高の存続の問題、通学バスの時間帯の問題とか、通学バスを民間経営者に委託したらどうかと、いろいろなことを過去言ってきたことがいっぱいあります。こういうものがやっとヒトツバタゴの保護についてはめどがついたと。それから幼保一元化の、幼稚園の新設についても前向きで年次計画に上げようというようなことで、非常に私としては前向きな検討が常にされてあるなという思いを今強く持ちました。

けさほどからいろいろ話がありますが、合併時の上対馬に教育委員会を置くという話も、

見直しによって、これは時代の流れでいたし方ないところもあるかと思えます。仕方のところはあるかもしれませんが。しかし、やっぱり、市民はいろいろな面で期待をしておりますので、我慢のできる範囲、私も市長に前々言いましたけど、とにかく明かりが見えれば我慢ができますので、真剣に前向きに取り組んでいただきたいと思っております。

多分このテレビは鰯浦の地区住民をはじめみんな聞いてありますよ。本当に気持ちが、ああ、やっとその気になってくれたなという思いで見えていただいている、そのように私は思います。これからもどうぞよろしく。特に、上高の存続に関しては、非常に上のためには大事な話です。同僚の小川議員が言いましたように、教育が一番大事なことですから、高校教育も受けられないような時代をつくり出さないように、あなたの時代にひとつ頑張ってもらいたいと思っております。まあ、私が言いましたように幼稚園、保育園、この問題は先般、部長のほうからも教育長のほうからも前向きの答弁があっておりますので、教育委員会に対してはこれで終わりたいと思えます。

さて次、市長、上対馬豊玉線、これは本当に私もすごい市長の実績だと私は高く評価をしておりますし、上地区住民また対馬島民が、東沿岸の動脈がやっと通ずるような見通しがついたということは、もう本当に喜んでおる、喜びに尽きると思えますよ。それで手法とかいろいろな問題はもうそれは事務方にお任せするというので、あんまり多くは語りませんが、これが教育長がおられたときに、また前地方局長がおられたときに、もみじ街道は考えてないということですから、今言われたような方向で三差路から五、六百上ってそれから右に入るかなというような理解を私はしておりますけど、そこら辺は事務方、専門の方々で進めていただければ結構かなと思っております。

私はたびたび上のほうばかりお願いして申しわけないんですけど、トイレの問題も予算づけしていただいて、前回お礼を言ったんですけど、一向に先に進まないような気がしますが、通告外ですけど、せっかくですから、やはり予算がついたら入札等々、もう終わってますよぐらいの、よろしく、ちょっとそこら辺お願いしたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本 治源君） 鰯浦の公衆トイレの件でございますが、入札が12月4日に終わったと思っております。ちょっと工期的に厳しいところもございますが、年度末までに何とか完成させたいと、していただきたいと、このように思っております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 結局、私がこうして市長にいろいろ厳しいことも言いますが、やはり市民であれ議員であれ、予算がついたであれば、早急に入札の準備をして発注をするというのが流れなんですね。流れなんです。私が特に言いたいのは、去年もそうなんでしょう。冷暖

房の施設だって1年おくれに結果的にはなったわけですから、ああいうことのないように、私はたびたび厳しいことを言いますが、そういう、やっぱり真剣に仕事をしてほしいと。頑張っていることはよく私も承知はしておりますけど、どうしてもおくれがちじゃないですか。だから小さいものは指名でどうですかという話をします。そして議会もそれでいいじゃないかというような話をしておりますけど、一般の競争入札になれば非常に時間がかかると、そういうことで私は常に気にとめておるわけです。先般もそうですけど、たまたま大事なお客さんが来ました。私はじきじきに案内をしたらトイレの水が、何か不自由はないですかと言いましたら、きれいに掃除はしてありますけど、手洗いの水が出ませんよというようなことでしたから、これもすぐ対応してくれたでしょう、いかがですか、できましたか。

○議長（作元 義文君） 上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本 治源君） その手洗いの件につきましては、その後すぐ対応しております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） ありがとうございます。やっぱり、そういうふうなことが結果的には市長の姿勢につながっていくわけですよ。だから私は、いろいろ質問もしてあちこち飛んで申しわけないですけど、本当に日ごろから言いますように、市民の方はそういうところを見ておるわけですから、これからもよろしく。やかましい議員ではあったでしょうけど、よろしくお願ひしておきますよ。それはどう考えられようが、結構です。市長、私が先ほど言いましたように、上のほうの国際センターですか、あれ何でしたかね、ターミナル、国際ターミナルも前向きなめどがついておるような状況ですから、何とか上のほうがどうも、南高北低というような声が聞こえますけど、市長はよく、上のほうにもよくしてくれてるなどは思っておりますけど、上は上で、そのような思いを持つ人が多々ありますので、これからも上対馬の北部の発展のためになお一層力を入れていただきたいと思ひます。どうでしょうか。全体的な感想と意気込みを、2期目の意気込みをここの前で語ってください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国際ターミナルについては、今、比田勝全体の活性化とどのようにターミナルそしてターミナル周辺を組み立てるか、また、今回のとんちゃん部隊の活動結果というのを踏まえたときに、どのように見せ込んでいくとか、いろんなことがいっぱい要素があります。そういう意味において、今ワークショップを開きながら組み立てをしておるところでございます。

南高北低という話がありましたが、私のほうに入ってくる南部の方からの言葉は、南低北低でございます。全てが沈んでいるというふうな話であります。隣の芝生は青く見えるものでござ

いますが、決して南だけがとかいうふうな思いもありませんし、どうすれば対馬全体の浮揚につながっていくのか、そして市民の皆さん方のこれからの歩みというものに対して行政がどのように関与していけばいいのかということに日々心を砕いて物事をやってみようと思っていますので、決して南高北低というようなことはこちらでも考えておりませんし、そのような思いを持たれないように全体が底上げしていけるように、しっかりとこれからも取り組んでいきたいと思っています。

○議長（作元 義文君） 16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 意気込みはありがたいと思っておりますし、私自身も市長を支持した一人の議員ですから、上のほうのためにこれからも一生懸命お願いをするかも知りません。わかりませんが、今みたいな意気込みで、北のほうは北のほうでそれぞれ、あ、住んでよかったなど、そういう思いを持つように議会議員としてもやっていきたいと思っております。

もう一つ、いろいろお話ししたいんですけど、国境離島の特別措置法について、この機会に、私も国境離島活性化の関係がありますけど、市長の口から、この特別措置法を成立させたなら、本当に対馬の地域に住む住民として明るい見通しがつく施策が打ち出せるんじゃないかと、常々あなたが言ってあります提案型、そういう状況で私も本当に市長の任期中を反省してみますと、いろいろな施策を提案されました。提案されましたが、100%それが血となり肉となりましたかという少し問題はありますけど、今は、言われるようにそういう時代でしょうから、特にお願いがしたいのは、措置法の成立を見て、限界に来ておる「げんかい」の船を、上のほうの船を新船をつくってもらえるような、国土としての位置づけを、議会と一緒に何か残された時間頑張ってみようかなという感じがしますが、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 残された時間などとおっしゃらずに、これからもずっと取り組まればいいと思っておりますし、一緒に、特別委員会の委員長という大役を今担ってもらっておるわけですが、一緒にこの島の浮揚とか、本当市民が住んでいいよねっというような島をつくっていくため、この地形的条件というものを最大限に生かすためにも特別措置法というものを求めていかないといけないと思っております。単に補助率のかさ上げとかいうことではなくて規制緩和のこともあります。さまざまな手法を取り入れる特別措置法にしたいというふうに思っておりますし、議員の皆様方の知恵というものもその中にいっぱい入れて、この1月にかわりましてから県の離島対策協議会のほうの国境離島専門委員会のほうでも、1、2月の間に国に対して攻勢をかけていくという予定をしておりますので、間断なくずっと協議をしていきながら、よりよいものを求めていきたいと思っておりますし、できるだけ県全体、長崎県全体、国境離島という方向で行っておりますので、皆さんの合意もいただいて、ともに攻め込んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○議長（作元 義文君） 通告外が二、三点出ましたので、そろそろ締めを。16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） 時間はありますけど、非常に前向きな答弁をいただきましたし、そして、特別措置法の実現方にお互いに切磋琢磨して、市民、島民のために一生懸命頑張っていると思います。今回の質問は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで16番、糸瀬一彦君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を1時45分から行います。

午後1時32分休憩

午後1時45分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、7番、松本曆幸君。

○議員（7番 松本 曆幸君） 新生クラブの松本曆幸です。本日は偶然にも新生クラブの方がトップバッターから4番バッターまで続いておりまして、こんな偶然性はないとは思いますが、どうぞよろしくお願いをいたしておきます。本日は4点についてお尋ねをいたしたいと思っております。

まず、第1点目はAEDの設置状況と使用形態についてお伺いをするものであります。現在の設置状況と設置されている施設の場所、使用のあり方と管理形態について伺います。

私、医学的知識は全くありません。医療用語についても講習テキストなどにより、現在の地域におけるAEDの使用と管理の実情について伺うものでありますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

資料によりますと、平成24年8月1日現在対馬市に設置されているAEDの設置数は、消防分団庫をはじめ市や県の庁舎、公立学校や病院など、また民間施設など合わせて150基ほどが設置されておるようであります。

さて、AEDは申すまでもなく、心臓が細かくけいれんし血液を送れなくなる重い不整脈等の患者に電気ショックを与えて救命する装置であります。現在は、一般の人の使用も認められているため、消防署において講習も実施されて機械の使用の普及に努められているところであります。

この使用のあり方については、それぞれの設置地区において、救急時にはそこに居合わせた人たちが救急車が来るまで心肺蘇生とAEDによる応急処置が行われている現状であろうと思われまます。

このAEDの使用のあり方については、屋外に設置されているものについてはまだしも、公共